

# 数独 被災者ときほぐそう

## 「つらい記憶忘れられる」お年寄りに広がる

# 「大槌を聖地に」全国初の試験へ

東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた岩手県大槌町で、数字を使ったパズル「数独」の実力を競う全国初の試験が9月に行われる。被災後、数独の面白さに目覚めた高齢者らの要望がきっかけ。毎年開催し、大槌を「数独の聖地」と主催者は意気込む。



**数独とは**  
9×9の81個のマス目に数字を入れるパズル。タテ列、ヨコ列、ブロックごとに1～9までの数字を一つずつ、重複しないように入れる

タテ列 ↓

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 9 | 7 |   | 4 | 2 |   | 5 |   |
| 6 | 8 |   | 5 | 3 |   | 9 |   |   |
| 5 |   | 3 |   | 7 | 2 | 1 | 6 | 8 |
|   | 6 |   | 4 | 9 | 7 |   |   | 2 |
|   | 7 | 5 |   | 1 |   | 6 | 8 |   |
| 2 |   | 9 | 8 |   | 7 |   |   | 4 |
| 7 | 5 | 6 | 3 | 2 |   | 4 |   | 1 |
|   |   | 1 |   | 4 | 5 |   | 2 | 6 |
| 8 |   | 4 | 1 |   |   | 3 | 5 | 7 |

ヨコ列 ←

ブロック ←

例題(ニコリ編集「じいじとばあば ようこそ数独!」から)

- ⑤ 仮設交流施設で一気に数独の問題を解くお年寄り＝岩手県大槌町吉里吉里
- ⑥ 大槌のお年寄りの要望から生まれたやさしい問題集「じいじとばあば ようこそ数独!」

「ここに入るの、3かな?」。7月下旬、仮設交流施設で70代から90代の高齢者10人が一心に数独を解いていた。津波で親族4人を亡くした男性(83)は、全問正解に笑顔が浮かべた。「使っていない脳みそが動くね」。自宅でも病気がちの妻と毎日解くという。

数独は、3×3のブロックを9個組み合わせた正方形の枠内に、ルールに沿って1から9までの数字を入れていくパズル。一般社団法人日本数独協会によると、世界140カ国で親しまれ、日本でも熱心なファンが20万人以上いる。

大槌町は津波で市街地が壊滅し、人口の約1割が犠牲になった。いまも7人に1人が仮設住宅で暮らす。

### 「簡単な問題集を」

震災被災者の支援活動に取り組み東京のNPO法人「ソーシヤルハーツ」の川上誠代表(63)が「認知症予防に良さそう」と、3年前から町で数独を広め始めた。最初は「難しい」と拒否反応を示されたが、次第に「面白い」とファンが増えた。ただ、最も簡単な問題集でも四苦八苦する人も多いため、昨年、日本数独協会理事の後藤好文さん(66)にもっと簡単な問題集がないか尋ねた。

後藤さんは当時、数独の商標を持つ出版社「ニコリ」の副社長だった。町を訪れ、「数独を解いているときだけは、つらい記憶を忘れられる」と話す高齢者

に出会った。社内からは難易度を下げることには反対が出たが、「もっと簡単に解けるものにして、人生の楽しみを届けよう」と説得。新問題集「じいじとばあば ようこそ数独!」が、今年4月に刊行された。

### 復興支援で寄付

初版は5千部だったが、高齢者を中心に口コミで引き合いが相次ぎ、11月には第2弾が刊行予定だ。震災の復興支援で、売り上げの2%が数独協会から町に寄付される。

その後、問題集を解いた大槌や全国の高齢者から「自分のレベルを知りたい」という声が協会に寄せられるようになった。協会は「ファンの励みになれば」と、大槌町で第1回の「数独技能認定試験」を実施することにした。

実施日は9×9のマスにちなんで9月9日に設定。午前11時から町中央公民館大会議室で開く。新問題集のレベルから4問出題し、40分の時間内に全問正解すると7級。正解が3問で8級、2問で9級、1問で10級と認定する。ゼロでもルールを理解していれば11級とするという。郵送により、自宅でも受けられる。

後藤さんは「大槌の高齢者が問題を解いたときに見せた笑顔が忘れられない。試験を機に、全国の数独ファンに被災地へ足を運んでもらい、復興の現状を知ってほしい」と話す。

問い合わせは協会ホームページ(<http://sudokujapan.com/>)か、〒150-0002 東京都渋谷区恵比寿西2の20の8の102 一般社団法人日本数独協会へ。(星乃勇介)